

うたごえ新聞

2 / 25
(1991年)
NO. 1341

THE SINGING VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2-16-36
☎ 03(3209)0638 F A X 03(3200)0105
振替口座 東京12-5631 毎週月曜日発行
1部120円・6部4円(〒26円)・月480円(税15円(〒120円))

人の心を打ち抜く芝居とは...



「ときめきインタビュー」 作・演出家 木村光一氏に聞く

「この子たちの夏」のロングヒットをはじめ、「フィガロの結婚」「化粧」「雪国」等々、演劇賞受賞作品も多く注目されている地人会の作・演出家木村光一氏。ピリッ・ホリッの手をテーマに人種差別を扱った現在上演中の「奇妙な果実」も満員の盛況。様々なテーマに迫り、支持を得ていく演劇づくり、それを生み出す氏の魅力は...

松村 私、先生の作品では、「橋」(A・ウエスカー)を観て大変印象に残っているんですが、そもそも演劇の世界にはいられたのは...

木村光一(きむら・こういち) 演劇制作家・地人会主宰、作・演出家
1931年、千葉県市川市生まれ。54年、東京大学文学部美学美術史学科中途退学。81年9月、演劇制作体 地人会設立。
主な受賞作品、66年、「山鏡」(水上勉作、文学座)と「マズグレイブ軍曹の踊り」(J・アーデン作、青俳)で日本演劇協会賞、「地の群れ」(井上光晴作、青俳)で芸術祭奨励賞。82年、「越後ついでし親不知」(水上勉作、文化座)、「化粧」(井上ひさし作、地人会)で紀伊國屋演劇賞。89年、「夢・桃中軒牛右衛門の雨」「この子たちの夏」(構成木村)、「砂の上のダンス」(山田太一作、地人会)、「雪国」で芸術選奨文部大臣賞受賞。



▲南部合唱団・松村美穂さん

木村 学生時代に好きだった日本女子大の女の子が芝居やりたんだって言ったのがきっかけなんです(笑)。それで僕が学生運動やってた頃知り合った俳優の長岡輝子さんとか劇作家の矢代静一

彼女に惹かれて芝居の世界に
木村 じつは、いろんな芸術のジャンルのなかから芝居がすばらしい、と思って選んだんじゃないかね。
松村 (爆笑)先生からそういうこと聞くとほんとに素晴らしいんです(笑)。
木村 文学座に行ったら長岡さんに、なにしにきたのよって言われて、でも文芸部にやってたことになっちゃったんです。

松村 (爆笑)それいくつの時ですか?
木村 二十二三の時。彼女がいなくなったからって、すぐ辞めると悪いじゃないですか。
木村 くだらないことやってるなと思っちゃったけど、学生運動やってた学もあまり行ってなかったし学生運動ももうた

めだなあって思ってた頃で、また、そこに居れば自然に興味が出てくるってこともあったし、大学のほうも授業料未納で除籍になっちゃったから。その頃テレビが始めた頃で、目先のきいた奴はそっ(4、5面につづく) (修)

次号 第24回 日本全国協議会総会 特集

第24回日本のうたごえ全国協議会総会が、富士箱根ランドで開かれました。それぞれの発言は一年間の活動を交流しあいホットで元気のでる総会でした。

総会の二日目は全部うたごえの大交流会というのでもないではないでしょうか。湾岸戦争というたいへんな中、いくつもの曲がつけられたのもすばらしいエネルギーです。

さて、事業活動も昨年は大いにかんばりました。新しく設定されたうたごえホールデン・ディスク大賞は中央合唱団に、奨励賞は北海道合唱団など九団体が選ばれました。いつの時でもほめられることほうれしいもので、これを励みに今年も「メーデー・労働歌集」十万冊達成にむけて、九一国民春闘、一斉地方選挙と結んで、交流会でみせたパワーで大いにうたごえしたいものです。